

令和4年度

各教科 年間
指導・評価計画

【第2学年】

国分寺市立第一中学校

令和4年度 指導計画・評価計画 (学年：2 教科：国語)

	単元	学習内容	評価の観点
一 学 期	詩、短歌見えないだけ 新しい短歌のために	詩の鑑賞	【知・技/態】 ・作品に表現された情景を想像して群読している。 ・表現の工夫に注目して短歌を読み味わう。
	小説 アイヌプラネット	小説の 読み取り	【思・判・表/態】・登場人物の言葉や行動に注意して、人物の思いを捉えている。 ・作品中の人物について、自分が考えたことを挙げている。
	古典 枕草子	古典の学習	【知・技】・音読を通して古典の文章のリズムに親しみ、古文に対する関心を広げている ・歴史的仮名づかいや古文特有の語句など、作品の表現の特徴をとらえている。
	説明文 クマゼミ増加の原因を探る	説明文の 読み取り	【思・判・表/態】 ・文章表現や構成上の工夫、事実と考えの示し方に着目して、その特徴を捉えている。
	プレゼンテーション 魅力的な提案をしよう	プレゼンテ ーション	【思・判・表/態】 ・多様な方法で発表する材料を集め、わかりやすい説明をしている。 ・発表を聞きながら、友達の発表を評価する。
	熟語の構成 類義語・対義語・多義語 言葉の力、単語の分け方	言葉につい での学習	【知・技】・熟語の構成や類義語・対義語・多義語について理解している。 ・自立語について、決まりや特徴を理解している。 ・言葉の力について考えている。
二 学 期	小説 盆土産 随筆 字のない葉書	小説の 読み取り	【思・判・表/態】・作品中に描かれた人物の気持ちをとらえている。 ・文中の見方考え方について、体験等と関連づけて自分の考えをもつ。
	書く 手紙や電子メールを書く	手紙	【思・判・表/態】・伝えたい内容を明確にし、気持ちや用件が的確に伝わるように表現 や構成を工夫している。
	説明文 モアイは語る	説明文の 読み取り	【思・判・表/態】 ・段落や接続語、指示語の効果的な使い方に着目して作品を読み深めている。
	漢字 同じ音、同じ訓をもつ漢字	漢字の学習	【知・技】・同じ音訓を持つ漢字について理解できる。
	言葉 敬語、用言の活用	言葉の学習	【知・技】・用言の活用について理解している。 ・敬語の種類や、それらの使い方について理解している。
	古典 扇の的/仁和寺にある法師 漢詩の風景	古典の学習	【思・判・表/態】 ・音読を通し古典の文章のリズムに親しみ、古文や漢詩に対する興味や関心を広げている ・歴史的仮名遣いや古文特有の語句や作品の表現の特徴を捉えている。
	行書の書き方 点画の省略、筆順変化	書写技能向 上の学習	【知・技】 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速くことが できる。
話し合い 立場を尊重して話し合う	話し合い 活動	【思・判・表/態】 ・相手の立場や考えを尊重しながら目的に沿って討論し、互いの発言を検討して考えを 広げている。	
三 学 期	評論 君は「最後の晩餐」を知っているか 研究の現場によろこ	評論文の 読み取り	【思・判・表/態】・文章に述べられた事例と筆者の主張との関係を考え、内容を読み深め ている。 ・文章に表れているものの見方や考え方について、体験等と関連づけて考えをもつ。
	パネルディスカッション 話し合って考えを広げよう	ディスカッ ション	【思・判・表/態】・資料などを効果的に活用し、自分の考えの要点を簡潔に説明している。 ・話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。
	書く 意見文を書く ある日の自分の物語を書く	作文	【思・判・表/態】・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の 考えをまとめられる。
	言語 一字違いで大違い 方言と共通語	言語に関す る学習	【知・技】・文の中の成分の順序や照応、文の構成などについて考える。 ・共通語と方言の役割について理解している。 ・助詞や助動詞の働きに注意できる。
	小説 走れメロス	小説の読解	【思・判・表/態】・登場人物の言葉や行動の意味に注意し、読み取り内容をまとめる。
	書写 行書の書き方 行書に調和する仮名	書写技能 向上の学習	【知・技】 ・目的に応じて楷書、行書を選んで書く。

評 価	方 法	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む 態度
		テスト	テスト	ワークシート	テスト
		作品	スピーチ	批評文	発表
		ワークシート	発表	作文	作品
		話し合い	作品		
基 準	各評価場面での評価項目において、十分に満足できる状況を100%とした場合の、80%以上をA、50%以上をBとする。				

令和4年度 指導計画・評価計画 (学年:2年 教科:社会)

	項目	ねらい	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2 3 学期	【地理】 2章 世界と 比べた 日本の 地域的 特色	・世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。	・「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結びつき」などの視点から、世界や日本の諸地域における地理的事象の特色を理解できる。 ・世界と比較した日本の地域的特色を理解するために、地図や統計、グラフなどから地理的事象の特徴を読み取り、図表などにまとめる。	・世界全体、日本全体、国内の事例地域という異なる地域スケールで、さまざまな地理的事象について比較考察し、表現できる。	・世界的視野における日本の地理的事象に関心をもち、それらに対して積極的 ・意欲的に追求しようとしている。
	3章 日本の 諸地域	・日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について自然環境や産業、歴史的背景などを中核とする考察を基にして、地域的特色をとらえさせる。	・日本の諸地域について、七つの視点を中心として地域的特色を理解できる。 ・日本の諸地域における地域的特色に関し、さまざまな資料を集め、情報を適切に選択して、読み取り、図表などにまとめられる。	・日本の諸地域における地域的特色を、七つの視点を中核とした考察の仕方をもとに多面的に比較考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。	・日本の諸地域における地域的特色に対する関心をもち、それを積極的・意欲的に追究しようとしている。
1 2 3 学期	【歴史】 第4章 近世の 日本	・歴史的事象の意味意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追求したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養わせるとともに、学習内容の確かな理解と定着を図らせる。	・近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開を日本の歴史と関わる世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。 ・近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開に関する図版、資料、年表や歴史地図などの様々な資料を活用している。	・近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開から課題を見出し、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。	・近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開に対する関心を高め、意欲的に追及している。武将や豪商の文化、町人文化や地方の生活文化の関心を高めている。
	第5章 開国と 近代 日本の 歩み	・歴史的事象の意味意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追求したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養わせるとともに、学習内容の確かな理解と定着を図らせる。	・開国から明治維新を経て近代国家を形成していく過程を欧米諸国の動きとの関わりの中で理解し、知識を身に付けている。 ・近代産業の発展と国民生活の変化を理解し、近代文化の形成と文化の大衆化に気づき、その知識を身に付けている。 ・近代日本が成立していく過程を図版、資料、年表、歴史地図などの様々な資料を読み取り、活用していくことができる。	・近代日本が形成されていく過程を国際情勢や国内の動きから考察し、公正に判断し、述べることができる。	・近代日本が形成されていく過程に関心を高め、欧米諸国との関わりに留意しながら意欲的に追及している。 ・身近な地域にある幕末から明治時代にまつわる文化遺産などに関心をもち、尊重しようとしている。

評価基準	方法(材料)		ア 定期テスト イ ノート ウ 課題 エ 発言	ア 定期テスト イ ノート ウ 課題 エ 発言	ア 定期テスト イ ノート ウ 課題 エ 発言
			ア, ・テスト中の知識・技能を 求める問題に解答でき る。 ア, イ, ウ, エ ・課題に対して資料に基づ いて考え、追究すること ができる。 ・適切な資料を取捨選択し て活用し、まとめている 。	ア, イ, ウ, エ ・地理的・歴史的事象 に対して自分なりに 課題を設定できる。 ・課題に対してさまざま な角度から考察し、 自分なりの考えを持 ち、表現することが できる。 ・テスト中の思考・判断 を求める問題に解 答できる。	ア, イ, エ ・地理的・歴史的な事 象に対する興味・関 心が自分なりに表現 されている。 ウ ・見やすい工夫がされ ていて、よく調べて いる。
地理的分野 45単位時間	A	上記項目合計の達成率 80%以上	上記項目合計の達成率 80%以上	上記項目合計の達成率 80%以上	
	B	上記項目合計の達成率 50%以上	上記項目合計の達成率 50%以上	上記項目合計の達成率 50%以上	
	C	上記項目合計の達成率 49%以下	上記項目合計の達成率 49%以下	上記項目合計の達成率 49%以下	
歴史的分野 65単位時間					

※新:地理的分野:115時間/歴史的分野:135時間/公民的分野:100時間

令和4年度 指導計画・評価計画 (学年：2 教科：数学)

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期	式の計算	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 目的に応じて、簡単な式を変形することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 文字を使った式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。 文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> 2元1次方程式とその解の意味を理解している。 連立2元1次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 簡単な連立2元1次方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1元1次方程式と関連付けて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 連立2元1次方程式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 連立2元1次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 連立2元1次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 連立2元1次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
2 学期	1次関数	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数について理解している。 事象の中には1次関数として捉えられるものがあることを知っている。 2元1次方程式を関数を表す式とみることができる。 1次関数の変化の割合やグラフの切片と傾きの意味を理解している。 1次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数として捉えられる2つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 1次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1次関数の必要性和意味を考えようとしている。 1次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 1次関数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	平行と合同	<ul style="list-style-type: none"> 多角形の角についての性質を見いだせることを知っている。 平行線や角の性質を理解している。 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解している。 証明の必要性和意味及びその方法について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれらを確認、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 証明の必要性和意味及び証明の方法を考えようとしている。 平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
3 学期	三角形と四角形	<ul style="list-style-type: none"> 証明の必要性和意味及びその方法について理解している。 定義やことがらの仮定と結論、逆の意味を理解している。 反例の意味を理解している。 正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 証明を読んで新たな性質を見だし、表現することができる。 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。 ことがらが正しくないことを証明するために、反例をあげるすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 証明の必要性和意味及びその方法を考えようとしている。 平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	確率	<ul style="list-style-type: none"> 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を理解している。 簡単な場合について確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいことに着目し、場合の数をもとにして得られる確率の求め方を考察し表現することができる。 確率を用いて不確定な事象を捉え、考察し表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数をもとにして得られる確率の必要性和意味を考えようとしている。 不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
	データの比較	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解している。 コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を考えようとしている。 データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 四分位範囲や箱ひげ図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
方法	定期テスト	定期テスト	授業態度（発言内容など）
	単元テスト	単元テスト	課題に取り組む態度
	確認テスト	確認テスト	提出物の提出状況
基準	各評価項目において、十分に満足できる状況を100%とした場合、80%以上をA、50%以上をB、50%未満をCとする。		

令和4年度 指導計画・評価計画

[第2年 理科]

学期	観 点 別 評 価 例				
	月	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 学期 [48]	4月	継続観察 [1]			
	5月 [12]	単元1 化学変化と 原子・分子 [34~36]	化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、物質の成り立ち、化学変化、化学変化と物質の質量を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現している。	化学変化と原子・分子に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	6月 [16]	単元2			
	7月 [8]	生物の体の つくりと はたらき [36~38]	生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、生物と細胞、植物の体のつくりと働き、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な植物や動物の体のつくりと働きについて問題を見いだし、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現している。	生物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2 学期 [56]	9月 [12]				
	10月 [16]	単元3			
	11月 [16]	電流と その利用 [31~34]	電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、電流、電流と磁界を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現している。	電流とその利用に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
12月 [12]					
3 学期 [36]	1月 [12]	単元4			
	2月 [16]	気象の しくみと 天気の変化 [29~31]	気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象観測、天気の変化、日本の気象、自然の恵みと気象災害を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現している。	気象とその変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	3月 [8]				
評価材料		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 実験、観察のレポート 実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 実験、観察のレポートの考察、発言や発表 	<ul style="list-style-type: none"> 実験・観察への取り組み 課題の提出、取り組み 夏休みの課題 	
評価規準		A 上記評価項目の達成率80%以上 B 上記評価項目の達成率50%以上	A 上記評価項目の達成率80%以上 B 上記評価項目の達成率50%以上	A 上記評価項目の達成率80%以上 B 上記評価項目の達成率50%以上	

※指導教員数及び持ち時数によっては、一部の単元を並行して実施することもあり得る。